

# 1 章 益田川の概要

## 1 益田川の定義

『飛州志』によれば、「○益田川南方ノ大河長流タリ濫觴益田郡阿多野郷野麦村也同郡下原郷渡村ニ至リ自是濃州武儀郡ニ流行シ武儀加茂ノ南部ニ於テハ飛驒川ト云ヘリ加茂郡ノ落合ト云フ所ニシテ信州ノ木曾川ト一流トナル自是中山道の太田川ト称セリ」とある。

乗鞍岳の麓にある野麦集落から始まり、金山町の渡地域に至る「益田川」の名称は、旧益田郡であった下呂市内で使用されるだけでなく、高山市の高根町・朝日町・久々野町で現在も一般的に使われている。現在の高山市高根町・朝日町は阿多野郷として益田郡を構成しており、1889年の町村制施行で朝日村・高根村となってからも益田郡を構成したが、1950年に大野郡に移行（2004年に高山市に編入）した。

御嶽山の水は大小さまざまな滝を形成し、濁河川・小坂川をつくった後、益田川に合流する。また、位山・舟山・川上岳といった、高山市との境をなす下呂市北部の山から流れる水は山之口川や馬瀬川を形成、益田川に合流し、南下する。



岐阜県と長野県境の野麦峠（左奥に乗鞍岳）（高山市高根町 8月9日）



御嶽山から流れる小坂の滝（下呂市小坂町 2011年8月2日）



益田川（左）に合流する馬瀬川（右）（下呂市金山町 8月19日）



美濃地方に向かう「飛驒川」。石碑は元禄時代の飛驒(右)と美濃(左)との国境紛争地跡（金山町 8月11日）



(上)『飛騨国全図』のうち益田郡部分

「乗鞍嶽」や「御嶽」などの山々から発する河川が益田川となる。黒い実線が郡境を示す。益田川が流れる地域が益田郡を形成しているが、一部地域が大野郡となっている。

(下) 久々野郷付近の拡大部分

益田川右岸の一部が大野郡久々野郷を形成している。益田川左岸の多くが益田郡だが、小坊・有道地域は大野郡となっている（記載されている村の数や他の地図と比較して、黄色の着色は誤りと思われる）。この地域の境界は河川（谷）となっている。

(資料 岐阜県図書館蔵『飛騨国全図』  
天保三年)



## 2 益田川の支流

『飛州史』には、益田川に続き益田川の子な支流が記されている。上流域から順に並べると下表ようになる。なお、詳細な支流と益田川との関係は、『岐阜県益田郡誌』（以下『益田郡誌』と記す）および『久々野町史』を参考にして作成した次ページ以下の通りである。

	河川名	濫觴（源流）	合流地
1	秋神川	益田郡阿多野郷胡桃島村	益田郡阿多野郷黒川村
2	無数河川	大野郡久々野郷無数河村	大野郡久々野郷無数河村
3	小坂川	益田郡小坂郷大洞村	益田郡小坂郷落合村
4	山之口川	大野郡久々野郷山之口村	益田郡尾崎村
5	竹原川	益田郡竹原郷御厩野村	益田郡小川村
6	馬瀬川	大野郡川上郷檜谷村	益田郡下原郷渡村



秋神川（7月20日高山市朝日町）



無数河川（7月27日高山市久々野町）



小坂川（8月15日下呂市小坂町）



山之口川（8月23日下呂市萩原町）

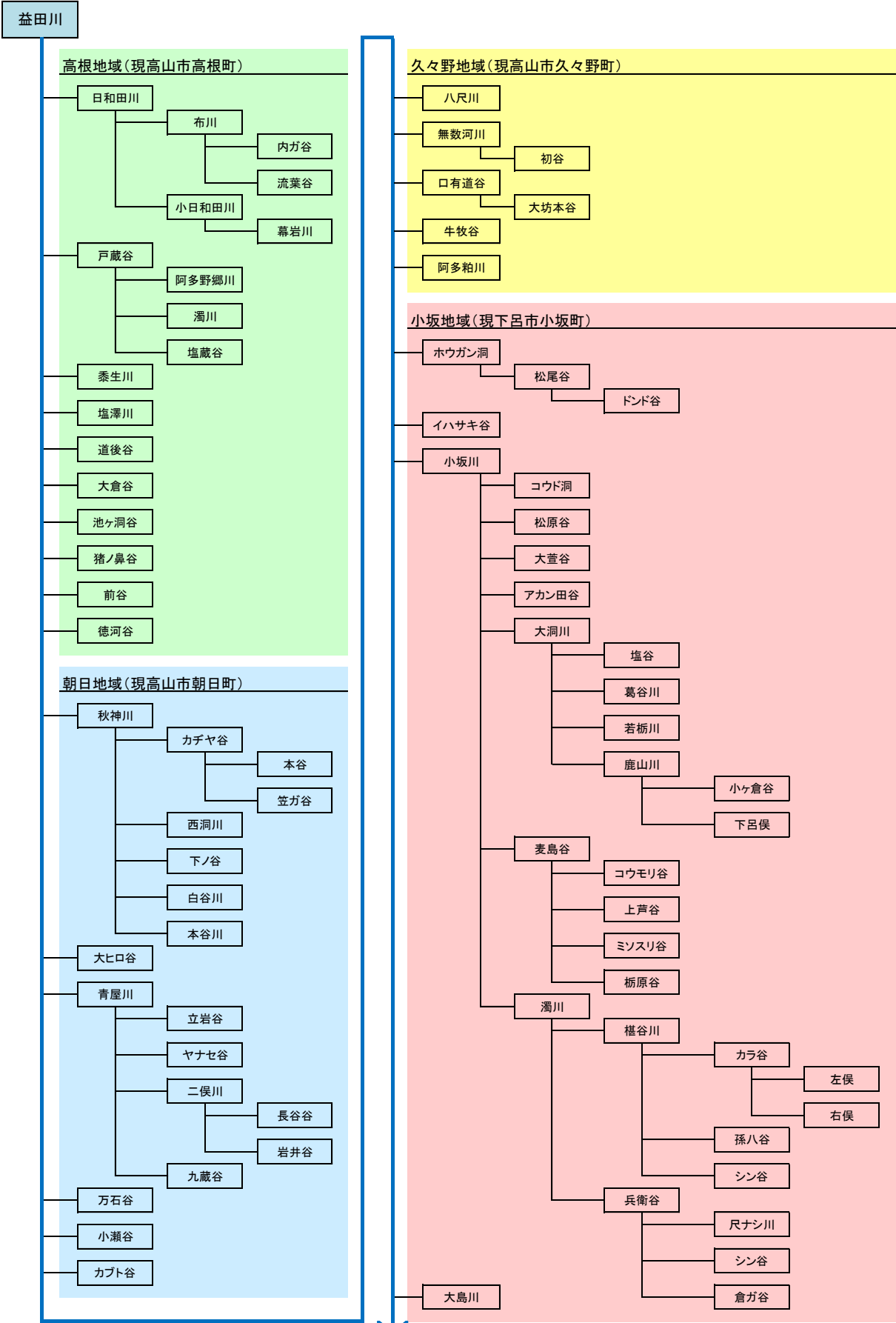


竹原川（8月19日下呂市宮地）



馬瀬川（6月28日下呂市馬瀬）

益田川水系(『益田郡誌』・『久々野町史』より)



(次頁へ)

